

市民参加型『水問題自分ごと化会議』開催 ～水道広域化は上田市に必要なか～

「ごみ問題自分ごと化会議」で皆さまから頂いた生の声を市政に届けた結果、生ごみ堆肥化施設整備計画は見直されることになりました。貴重な声をあげていただいた皆さま、本当にありがとうございました！自分ごと化会議を通じて民意を市政に反映することで、私のビジョンである「自分たちのまちの未来は自分たちが創る」ことが実現できたと感じています。

次は、令和6年度中に上田市として結論を出していくとされる水道事業広域化（≡坂城町、千曲市、長野市、長野県企業局との水道事業の合併）をテーマに開催します。命に直結するライフラインであり、皆さんのお子さん、お孫さんなど将来世代に必ず引き継ぐことになる水道事業について、ぜひ自分ごととして一緒に考えましょう！



日時：2025年2月5日（水）19時～20時45分

場所：海野町会館1階ホール ※じまんやきの富士アイスさん隣

内容：上下水道局による概要説明
登壇者によるディスカッション（質疑応答）
参加者の皆さまからの質疑応答ほか

登壇者：おいしい水を広める市民の会事務局長 川田富夫さま
※予定 元上田市上下水道事業管理者 小山田秀士さま
上田市上下水道局長 宮島裕一さま
同上下水道基盤強化対策室長 関守正さま
上田市議会議員 齊藤達也

※事前申し込みは不要です

※駐車場は海野町パーク等、近隣の駐車場をご利用ください

達参会ニュース

2025年（令和7年）第30号

発行人 達参会（齊藤達也後援会） 長野県上田市中央2-20-12 討議資料
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail : t.saito.koenkai@gmail.com



12月一般質問 生ごみ堆肥化施設整備計画 「市民の声を受け見直しへ」

問（齊藤達也）私が11月に主催した「ごみ問題自分ごと化会議」には56名の市民の皆様にご参加いただいた。終了後のアンケート結果は、「生ごみ堆肥化施設整備についてどう思いますか」という質問に対しては、賛成が5人（13%）、反対が30人（77%）、どちらでもないが4（10%）であった。次に、「ごみの減量化に向けてどのような取組が有効だと思いますか」という質問に対しては、①生ごみの減量化機器の継続・拡充が10件、②可燃ごみに占める割合が最も高い紙・布類の分別リサイクルが5件、③生ごみの水切りの徹底や作り過ぎないなど生活上の工夫が5件、④デスポーザーの設置が3件、⑤その他ぱっくんやコンポストなど既存の取組や自家利用などが挙げられた。それ以外にも様々な貴重なご意見、ご質問が出たが、その様子は全てYouTubeで公開してある。

【街頭演説】

3分でわかる生ごみ問題



【アーカイブ】

ごみ問題自分ごと化会議



市長は、9月定例会で資源循環型施設の負担を少なくするためにも大きな覚悟を持って取り組まなければならない大変重要な施設であると答弁しているが、上田市の家庭系可燃ごみの搬入量は、既に資源循環型施設の負担を少なくする日当たり144トンの処理量の前提となる目標値を令和5年度に既に達成している。可燃ごみに占める生ごみの割合も、直近は10%台で推移する中、多額の税金を投入して家庭系生ごみに特化した施設整備を進める理由は何か。また、もし対象地域の住民が反対したら、それを受けて修正するつもりがあるのかという私の再質問に対し、前へ進めていきたいと答弁しているが、11月14日に開催したごみ問題自分ごと化会議での施設整備に関する賛否の状況や施設整備に代わるとごみ減量化の具体的な提案、市民の皆さんの生の声を受けて計画を修正するつもりはあるか。

答（土屋市長）資源循環型施設で計画する施設規模につながる市の可燃ごみ排出量は、令和4年度まで増減を繰り返していたが、令和5年度は前年度と比較して、家庭系可燃ごみを中心に約5%と大幅な減量となっている。令和6年度の9月末までを見ても、昨年度の同時期と比較して同程度で推移しており、排出量の減少の傾向は、可燃ごみに占める生ごみの割合の減少と同様に、一過性のものではないと推測されている。

可燃ごみの排出量の動向を注視しながら、説明会などを通じて市民からいただいた様々なご意見、ご要望も参考に、施設の規模や事業費、スケジュールなどの精査を含め、今後庁内で慎重に協議していく。